

効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール

～地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて～

2023年3月
(株)日本総合研究所

なぜいま、地域包括ケアシステムの「機能性の点検」なのか？

地域のビジョンの共有と分野横断的・統合的なマネジメントへ

■ 地域包括ケアシステムのビジョンや目標を改めて検討する

- これまで、高齢者・介護部局が中心となって、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが行われてきました。しかし、これからの少子高齢化のさらなる進展や地域ごとの事情も踏まえると、**各分野・領域を超えて共有できるよう、全体最適化の観点から機能性を高める取り組みが不可欠です。**
- **もとより地域包括ケアシステムを構成する社会資源や体制等は、それらが相互に連携することで大きな効果が期待されるものです。**地域包括ケアシステム構築の節目となる2025年を迎えようとする現在、「**わがま****ちの地域包括ケアシステムとは**」を改めて見直し、**地域のビジョンや目標を再度明確化することが大切**です。

資源や事業の整備から、機能性の発揮への転換

■ 全ての社会資源や体制等を最適化し、効率的に繋ぐことが重要

- 社会資源の整備のみならず、**既に地域にある社会資源や体制を工夫して改善し、その機能性を高めること**こそが、地域づくりの基本的な方向となります。このため、『保険者』としてだけでなく、全庁的な体制を含めた、『自治体』としての状況の点検・評価が重要です。
- したがって、地域の総合計画等との整合性を図りながら、「ビジョン」を起点に、関係部局とも連携の上、政策・施策・事業のあり方を考え、ひとつひとつの取り組みの成果が上位の目標にどのように貢献しているか、さらに効果的なものとするにはどのような工夫があり得るかを振り返る必要があります。
- 本ツールは、上位目標に照らして施策・事業の位置づけを振り返り、施策・事業を「**機能性（＝目標とすべき状態の実現に資するように機能しているか）**」に着目して見直す視点を提供します。

なぜいま、地域包括ケアシステムの「機能性の点検」なのか？

「ビジョン」を起点に施策・事業のあり方を考え、
ひとつひとつの取組の成果が上位の目標にどのように貢献したかを振り返る

「機能」面で目標とすべき状態の実現に資しているかを分解して点検する

起点：ここから
考えていく。

地域のビジョン

**高齢者個人が尊厳を保持し、かつ個人の能力に応じた自立した
日常生活の維持・継続できる社会の実現**

地域の総合計画・総合戦略等とも連動して検討し、表現する。

総合計画レベル

政策目標の具体化
(実現したい状態)

地域の理想像（ビジョンの実現）に近づくために、
政策目標の具体化と、その機能、効果について点検する。

介護保険事業
計画レベル

施策・事業

政策目標の実現に向けて、個々の施策が連動しつつ、
十分に機能しているか（機能性が発揮されているか）を体系的に
点検。評価に当たっては、関連する参考指標も用いるものとする。

施策・予算事業
レベル

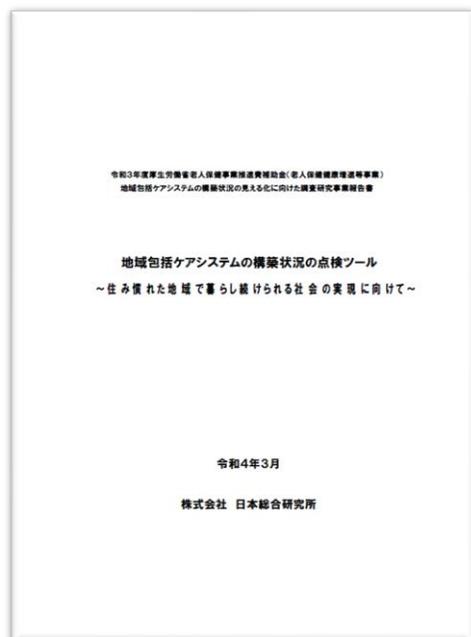
これまでの検討経緯

- 前述の背景にもとづき、令和3年度に、自治体における点検の考え方とそのための方針、参考となる指標等を整理した「点検ツール」をとりまとめた。
- さらに令和4年度には、令和3年度に策定したツールを用いて全国11か所の自治体において点検の実証を実施し、点検ツールのブラッシュアップを行った。

※改訂版のツールは今後公開予定です

令和3年度

- 点検の考え方と方針、参考となる指標等を整理した「点検ツール」をとりまとめて公表



令和4年度

- 全国11か所の自治体で実証
⇒点検ツールのブラッシュアップを実施

※改訂版のツール類は、令和4年度調査研究事業成果を踏まえて今後、公開予定です

①
ツール概要の
ご紹介資料

②
ツール本体
(記入や編集が
可能な形式)

③
ツール活用の
マニュアル

本ツールの特徴

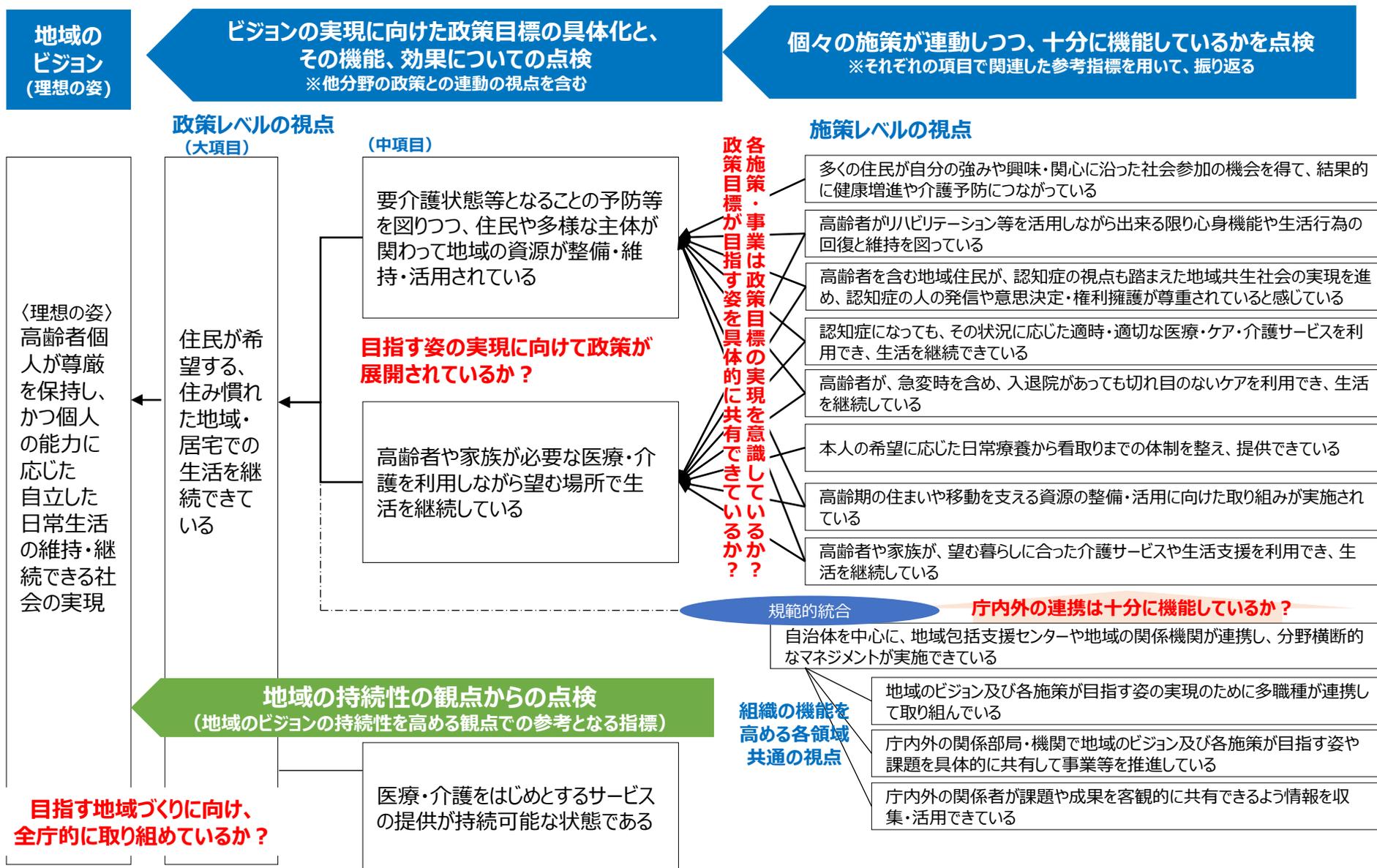
目標に対して手段が合っているか、手段が十分な効果をあげているかを、フルセット主義に基づく施策のチェックリストではなく、機能性の観点で点検するもの

- この点検ツールは、各市町村が、地域包括ケアシステムの構築という「目標」の達成に向けて、介護・福祉分野やそれ以外の資源を活用した施策という「手段」が十分な効果をあげているかを、できる限り客観的な指標も参照しつつ点検するためのツールです。
- 地域資源は有限であることから、この点検ツールは、**評価指標の全ての項目が満たされているかを見るためのものとして設計したものではありません**。同様に、介護保険分野の資源の整備状況の多寡の確認を直接の目的としたものでもありません。
- 本ツールは、**「地域のビジョン」**（＝高齢者個人が尊厳を保持し、かつ個人の能力に応じた自立した日常生活の維持・継続できる社会の実現）**という「目標」の実現に向けて**、その下位に位置付けられた**施策や事業という「手段」**による取組が**十分に成果を挙げ、貢献しているかを振り返り**、施策や事業について取り組むべき課題を明らかにしたり、優先順位を検討する際の視点を提供することを目的としています。
- 点検の結果、成果が出ていない、成果に貢献しない施策等は、優先的に見直すことが必要です。同じ成果を挙げることを目的とした手段の中で、より効率性の高い取組に重点化することも考えられます。
- 本ツールは、住まい・医療・介護・予防・生活支援といった個別の施策に位置付けられた事業取組が十分に連携され、「機能性」（＝目標とすべき状態の実現に資するように機能しているか）の観点から、**施策の展開をより効果的なものとするための考え方の点検**に役立てて頂けるものとしてとりまとめたものです。

点検の枠組みと視点

- 本ツールが前提とする点検の枠組みと視点は以下の通り。

※下記はプレ・リリース版時点での検討案であり、最終版で一部変更となる可能性があります



本ツールによる点検の流れ

- 本ツールを利用した点検の流れは以下の通り。
点検ツール本体は、以下の流れに沿って、担当者や庁内関係者がそれぞれ検討結果を記入・共有できるような形式となっている。

1. 視点に関する現在の取り組みの洗い出し

- ✓ この視点に関する現在実施している取り組みを洗い出す

2. 視点に関連した目指す姿の振り返り

- ✓ この視点に関して、既存の(上位)計画で位置付けられている目指す姿を振り返る

3. 目指す姿の実現状況の仮評価

- ・これまでの結果、地域の強み
- ・実現できていない要因の検討

- ✓ 目指す姿の実現に向けた、現時点での実現状況を「仮評価」する

4. 解決すべき要因の検討（仮の絞り込み）

- ✓ 目指す姿に向けてさらに推進するうえで解決すべき要因(仮説)を検討し、列記する

5. 知りたいことの洗い出し、利用可能な情報の収集・整理

- ✓ まずは知りたいことを洗い出し、さらに利用可能な情報を収集・整理

6. 確認結果を踏まえた今後の取り組みの検討

- ・取り組みをさらに良くするための工夫
(事業の組み立ての見直し、事業実施方法の工夫など)
- ・庁内連携や情報の収集・活用など体制等の改善方策

- ✓ 上記の確認結果を踏まえ、施策の展開をより効果的なものとするための工夫や見直しをまとめる

関係者とともに適宜、3〜5を繰り返す

 **次の施策の検討に反映・活用**

点検ツール イメージ

- 点検ツールは、下記のように、各自治体での点検作業に際して、それぞれ入力・編集できるような形式（電子ファイル）で提供。担当者だけでなく、庁内の関係者で情報を共有しながら活用が可能。

※下記はプレ・リリース版時点での検討案であり、最終版で一部変更となる可能性があります

点検ツールのイメージ（抜粋）と特徴

点検の視点やその解説を、各シートに分かりやすく記載

点検の視点に沿った点検結果の記入欄を用意

一部に選択肢形式を設けるなど、記入しやすい様式

記入にあたっての解説や参考情報を表示する機能を組み込み

システムの構築状況の点検ツール（ワークシート）社会参加

（中目録）：要介護状態等となることの予防等を図りつつ、住民が多様な主体が関わって地域の資源が整備・維持・活用されている

※施設・事業レベルでの施設性を点検する視点：多くの住民が自分の強みや興味・関心に沿った社会参加の機会を得て、結果的に健康増進や介護予防につながる

【この視点の概要】
地域に暮らす高齢者が望む生活の実現とともに、地域の新たな役割やまた社会参加の機会を増やしたり維持したりすることは、結果的に高齢者の強みや興味・関心に着目して、多様な社会参加の機会を

【点検項目】

+ 1. この視点に関連して現在行っている取り組みを
・初めに、この視点に関して現在どのような取り組みを行っているか
・次に、それらの取り組みによって現状がどう変わると期待しているか

取り組みの目的と内容

+ 3. 目指す姿の実現状況を仮で評価する
・ここで書いたことが現時点での程度実現できているか、これまでの成果および現状との関係は何か、仮の評価をしてみましょう。※ここではあくまでも「仮の評価」で構いません

(1) 目指す姿の実現状況（以下から一つを選択）

<input checked="" type="radio"/> ほぼ実現できている	・目指す姿を具体的に共有し、成果も現れている
<input type="radio"/> かなり実現できている	・目指す姿は共有できているが、成果が見れるのはこれからである
<input type="radio"/> 一部実現できている	・取り組みはあるが、目指す姿を共有できていない
<input type="radio"/> ほとんど実現できていない	・これから目指す姿や取り組みを具体化していく

(2) これまでの成果（特にこれからの取り組みに活用できる強みを書き出してみましょう）
例えば、この視点に関連する地域の強み、これまでに培われた地域資源を洗い出してください

(3) まだ実現できていない部分について、なぜ、乖離が生じているのでしょうか？
要因として考えられるものを挙げてみましょう

（解説） 要因の例

+ 2. この視点について、目指す姿がどのようなものか
・自分たちの地域では、住民の社会参加・健康増進・介護予防にどのような取り組みが行われているか
・例えば、総合戦略や介護保険事業計画等ではどのように表現されているか

+ 4. 解決すべきと考えられる要因を選ぶ
・3で挙げた複数の要因の中から、とくに「解決すべきと考えられる要因」として重要と考えられるものを絞り込んでみましょう。
※まずは仮説で良いので「仮の絞り込み」を行い、後の項目で関連する情報を集めて確認したのちに、さらに加筆修正してください。

（解説）
要因の検討や絞り込み
参考となる情報

点検の実施手順（例）

- モデル事業での実施結果を踏まえると、本ツールを活用した点検の実施手順(例)として、以下のような進め方が考えられます。
- なお、小規模な自治体では、本ツールが示す視点の一部だけを利用した点検も有効です。

1.点検の体制づくりとねらいの共有

- 誰が主担当となって、どのような体制で点検を実施するかを定める
- 関係課をまたがる検討体制とする場合は、事前準備として、自地域における地域包括ケアシステムの構築状況など、これまでの経緯や現状の認識を共有しておくことも有効である

2.点検の枠組みと視点の確認

- 点検を実施するメンバーで、枠組みと点検の概要・関係性を確認する

3.施策レベルの視点の点検

- 点検ツールを活用して、主担当を中心に、目指す姿およびその実現状況の仮評価を実施する
- 仮の評価であるこの段階から、可能な範囲で庁内外関係者も交えて検討を進めることも有効である
- 仮の現状分析結果にもとづき、知りたいことを洗い出し、利用可能な情報を収集・整理する
- 「地域包括ケアシステム見える化システム」等のデータに加え、庁内関係各課が独自に把握・収集している情報も活用する
- 収集した情報を整理・分析し、目指す姿の実現に向けて、さらに効果的に施策を展開していくうえで次に解決すべき要因を検討・検証する ※必要に応じて、追加の情報収集を実施する

4.点検結果の総括

展開

次期計画等に向けた反映

- 情報の分析・検討結果までを踏まえ、施策の展開をさらに効果的なものとしていくために、今後さらに取り組む工夫（事業の組み立ての見直し、事業運営方法の工夫等）を整理する
- 加えて、庁内連携や情報（データ）の活用など、複数の視点に横断的に関わるような庁内体制についての改善方策についても整理する
- 検討結果を庁内の関係者や、次期計画策定の検討にも共有・報告し、次の施策等の検討に役立てる

本ツールの活用メリット

■本ツールを活用するメリット

- これまでも事業レベルの評価は行われてきました。一方で、施策・事業ごとの評価を意識しすぎるあまり、縦割りに陥ってしまう難しさもあります。
- 本ツールを活用することで地域のビジョンに照らして**施策が何を目指しているかに関連する事業等がどのように位置づけているのか**を点検し、施策をより効果的に展開するために、**今後どのような工夫や見直しが考えられるか**を明らかにできます。
- また、点検ツール(様式)を活用することで、目指す姿や関連する現在の取り組み、今後の工夫などを**庁内外の関係者とともに共有・検討しやすく**することができます。

■本ツールを活用していただきたい場面

- 本ツールは、上位目標に照らして施策の位置づけを振り返り、より効果的に展開できるようなものとなっているかを点検するものです。
- したがって、**これまでの施策を点検して新たな施策の展開を組み立てる場面**で特にご活用いただくことを想定しています。

施策・事業の
振り返りや新規立案でよくある
悩み



普段担当する事業が、上位目標に照らしてどのように位置付けられるかを考えるのが難しい・・・



保険者機能指標などの結果をどう解釈して、次の施策・事業を組み立てれば良いか分からない・・・

本ツールの活用により・・・



「そもそも何のため」の事業だったかを確認し、事業で解決すべき課題や目標、他の事業との連携の視点を得られる



「なぜ、何のために」新たな施策・事業を組み立てるのかを、理事者等に対して、体系的に説明できる視点を得られる

本事業に関連する情報は以下から入手できます。ご参照ください

地域包括ケアシステム

～効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール～

■ ウェブサイトURL（日本総研HP内）

⇒https://www.jri.co.jp/service/special/content11/corner113/chk_tool/

■ 掲載内容

○点検ツール

－点検ツール

－概要説明資料

－概要解説資料の解説動画

－点検の手引き（※4月下旬頃公開予定）

○本点検ツールに関するこれまでの調査研究事業報告

■ ウェブサイトへ（日本総研HPへリンク）



本ツールは、厚生労働省令和4年度老人保健健康増進等事業の一環で作成したものです。